

実力者の稲葉管理者がひそかにきめていたのです。そしてその価格よりも安いと失格などと、建設汚職の代名詞にもなった、石川達三の「金環嶮」の一場面のように稲葉管理者の思いのままのその最低制限価格を書いた紙が存在したとするなら、それは火をつけて燃やされたのでしょうか？

実際 156億円で落札した住友重機よりも安い価格の業者が失格となっているのです。

人を信じることは美しいことです。しかし入札を決定するのは人というよりもシステムです。卑しい心根をもった実力者が自分の思いのままに決定することのできるシステムが美しい人間の心をけだものに変えてしまうのです。

なぜ 今の議会、市長は この業者選定システムを自分たちの手の届かないところに置こうとしないのでしょうか？ いつでも自分たちの干渉できるものにしておきたいのでしょうか？ この問題が一番の根元的な諸悪の源です。

この問題を解決するためにも、議員の定数は減らさず、ボランティアで仕事した実費をもらう人間による給料の安いオンブズ組織のような市議会に変えるべきなのです。そしてこれは今でも必要ですが住民参加意識を高めるためにも重要事項は住民投票に問うべきです。

微力ではありますが池田治夫が、汚職のできないシステムを叫び続けることによって、利権グループに対してかなりのプレッシャーになっていることは成果といえると思います。公正取引委員会が立ち入り調査に入ったということは、刑事事件でいえば、起訴されたということと同じです。この結果、他の自治体、厚木市などは契約した焼却炉の建設を契約解除しました。

東久留米市で同じ対応ができないのは何故でしょうか？ 市議会にチェック機能がないからです。

野党にあって活躍する共産党がチェックする側にいないことは権力を腐敗させます。

行政の側がつくるオンブズ組織など意味がありません。市民の自主的オンブズ組織が重要です。「中村敦夫」の国民会議はそのような本当にチェックできるオンブズ組織を作っています。あなたの推薦を「池田はるお」にくださるようお願い申し上げます。

【推薦理由書】

私たちの会は政党ではありません。政党は候補者を決定する場合、その決定に党利党略といったものが関与することがあります。誤解のないように申し添えますが、私は政党の党利党略が一概に「悪い」とは思いません。国会で多数派を形成するために、他党や諸々の政治勢力と妥協して選挙協力を組むことは、政党としては当然のことかも知れません。

長妻さんが公認されなかったことは、その意味で（政党的に言えば）「仕方のない」ことなのかも知れません。しかし、だからといって今まで長妻さん

を支援してきた方々が長妻さんの対立候補を推すことはあり得ないでしょう。その候補者が「政・官・財の鉄のトライアングルの打破」や「生活者主権を目指す」路線から逸脱してきたのなら別ですが、志を同じくする私たちの仲間だとすば、明確な根拠もなく古い仲間を捨て去ることは私にはできません。

「池田治夫氏」と地盤を同じくする対立候補の方の人となりについて私はよく知りません。ですから、その人のことを「悪く」云うつもりはありません。多分「いい方」なのだろうとは思いますが。長妻さんが公認を得られなかったことで、長妻さん本人および長妻さんを支援されてきた方も、そのことで反菅直人になったかと云えば、多分そうはなっていないだろうと思います。長妻さんの対立候補の方も「腹黒い」「陰謀家」では決してない（だろう）と思います。しかし当然その人を推せないですよ（少なくとも私は）。

「池田治夫氏」は、新党さきがけの結成準備会で「政官財の鉄のトライアングルの打破し、生活者主権を実現するために、平成維新の会から来ました」と堂々と表明していました。大前研一本人であればまだしも、普通菅直人や鳩山由紀夫を前にしてはチョット臆してしまうようなことを平気で挙手して意見表明をしてしまう彼の信念の強さに感服させられたことを憶えています。

その後の彼は、さきがけの公認、平成維新の会推薦で市議選に立候補し、僅か5票差で次点に泣きました。その後もめげることなく、節を曲げず、旧民主党の東久留米での唯一の黨員として活躍し、東久留米市長選にも立候補いたしました。市長選では自民党候補を応援する新民主党と決別しましたが、それも彼の非妥協的な信念の故のことです。

前述しましたが、私は私たちと志を同じくする古い仲間を見捨てたくありません。私たちの会と「平成維新を実現する全国ナントヤラの会」との軋轢はありましたが、例えばかつて知り合った大阪や青森の昔の仲間が政治的な行動を起こすとすれば、私はその人々を支持します。大前研一さんご本人も、いろいろご本人の身近で性格的な欠点も見せられましたが、それでも当初「平成維新」をお書きになった頃の大前さんの理念には、今でも共鳴しています。政治的な理由でのみ古い仲間を見捨てることはもうたくさんです。

大前研一が都知事に受かりそうか否かだけで、推薦するか否かを決める愚を、私たちは見てきたではありませんか。同じように、現職か否かが推薦の理由だというのは少しヘンです。

正直な話、私も池田治夫氏も、この会で最近殆ど活動していません。ただ、池田治夫氏はこの会の理念を日常的に地元で実践しています。そういう人物をぜひご推薦いただきたいと思います。自らのグータラさを棚にあげて、要請させていただきます。

推薦人代表 三鍋謙作